

(11) 九州



九州地域では、景気は一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

前回からの主要変更点

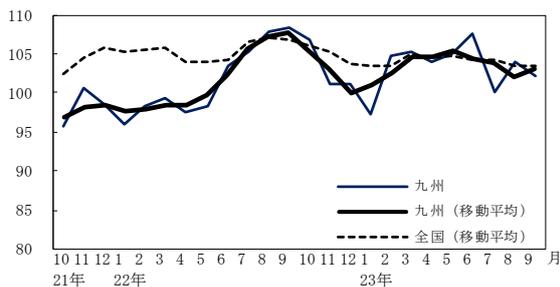
	前回（令和5年9月）	今回（令和5年11月）	
景況判断	緩やかに回復している	一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している	↓
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きに足踏みがみられる	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

7－9月期の鉱工業生産は、前期比3.2%減となった。月別にみると、7月は電子部品・デバイスが減少したこと等により前月比6.9%減、8月は電子部品・デバイスが増加したこと等により同3.7%増、9月は電子部品・デバイスが減少したこと等により同1.6%減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4－6 月期	7－9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	13.6	▲5.6	2.8	▲19.1	21.8	▲11.3
輸送機械	13.5	22.9	▲3.6	▲4.4	2.6	10.7
食料品	12.2	2.8	▲0.2	▲1.3	2.3	▲1.3
汎用・生産用・業務用機械	12.2	▲3.3	▲13.4	▲9.0	▲7.7	7.4
化学・石油石炭製品	10.0	1.8	▲6.2	▲5.9	▲1.7	▲0.7
鉱工業	100.0	2.9	▲3.2	▲6.9	3.7	▲1.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7－9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100（全国は2020年=100）、季節調整値。

九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7-9月期は前期比 0.5%減となった。月別にみると、7月は前月比 0.0%増、8月は同 0.5%減、9月は同 0.5%増となった。

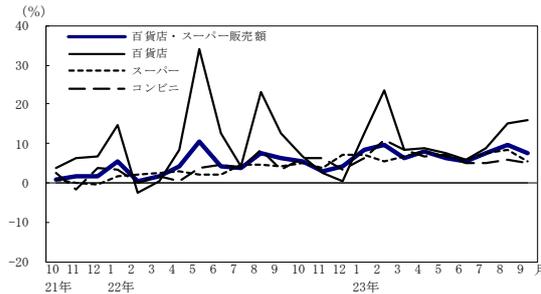
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7-9月期は前年同期比 8.3%増となった。月別にみると、7月は前年同月比 7.6%増、8月は同 9.6%増、9月は同 7.6%増となった。

百貨店は、7-9月期は前年同期比 12.9%増となった。

スーパーは、7-9月期は同 7.2%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2023年7-9月	2023年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	▲0.5	0.0	▲0.5	0.5
百貨店・スーパー(*2)	8.3	7.6	9.6	7.6
百貨店(*3)	12.9	8.8	15.3	15.9
スーパー(*3)	7.2	7.7	8.2	5.5
コンビニ(*3)	5.3	5.1	5.8	4.9
乗用車(*4)	14.1	9.5	16.9	16.2
(季節調整値) (*4)	▲2.7	▲9.8	2.1	1.3

(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

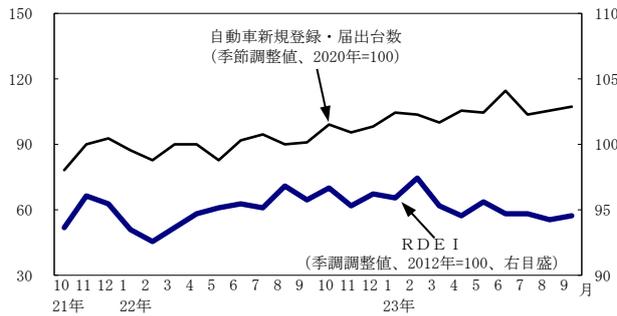
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

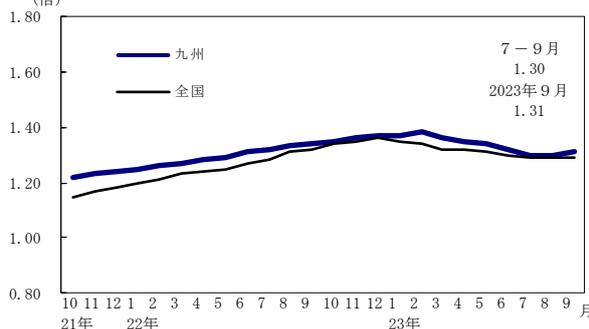


3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

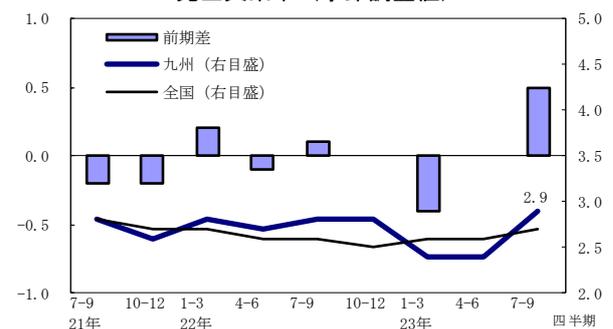
有効求人倍率はこのところおおむね横ばいとなっており、前回の景気循環の平均的な水準にある (P10 参照)。一般労働者の定期給与は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を上回っている。

有効求人倍率 (季節調整済、就業地別)



(ポイント)

完全失業率 (季節調整値)



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年10月調査）景気判断理由の概要

11. 九州

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連	□	・猛暑が終わり秋になったことで徐々に来街者数が増加していくのではないかと考えていたが、残念ながら増加せず、物価高などから消費を控えている（商店街）。
		○	・これまで来客数や売上点数が大幅に減少し、商品値上げの影響で単価が上昇していたが、来客数が戻っており、売上が前年を超えるようになっている（スーパー）。
		▲	・相変わらず来客数が回復しない。物価高の影響もあり、消費者の財布のひもは非常に固い（家電量販店）。
	企業動向関連	□	・韓国の政権が変わったことでビールなどの輸出が回復しているが、中国の景気は低迷しているため、輸出入貨物の動きが悪くなっている。国内では物価高の影響が大きく、貨物が倉庫内に停滞している。2024年問題を踏まえた運送料や商品の値上げも要因の1つである。一方、倉庫としては、今後物流の中継場所として荷主からの拠点要請もあるため、好機である（輸送業）。
		○	・鳥インフルエンザの影響で原料の鶏が少ないが、販売の引き合いは強い状況である。特に量販店向きが強く、落ち込んでいた外食部門も新型コロナウイルス感染症発生前には及ばないものの90%まで回復している。工場生産も原料が少なく売上が横ばいではあるなか、付加価値商品の開発などによって従来よりも利益が大きく増加している（農林水産業）。
		▲	・賃金や物価の上昇に対応できないことによる倒産や閉鎖を聞くようになった。外国人研修生などの入国や手配も難しい状態である（繊維工業）。
雇用関連	□	・前年と比べ年末特需の仕事の発注はあるが、人材募集に苦戦を強いられている（人材派遣会社）。	
	○	・事務関係だけではなく、医療、介護・福祉、ホテル業界等からの募集や問合せが多くなっている。社員の不補充枠などに対して派遣利用を検討する動きも増えており、やや景気が良くなっている傾向である（人材派遣会社）。	
その他の特徴コメント			○：大半の施設が単価の値上げを行っているが、旅行シーズンでもあるため、需要はしっかりある（都市型ホテル）。 □：天候にも恵まれ、予約、実績共に順調に推移している。来場者の購買意欲も、徐々にではあるが上がっている（ゴルフ場）。
先行き	家計動向関連	□	・10月からの最低賃金の引上げにより、消費行動がポジティブに動くことを期待している（コンビニ）。
		○	・物価は高騰しているが、飲食店であるためインバウンドや忘年会、新年会が続き、忙しくなっていく（高級レストラン）。
	企業動向関連	□	・自動車や住宅の販売が回復しているほか、百貨店やスーパーマーケットの売上も増加傾向にある。また、公共工事は高水準で推移しており、飲食店及び旅行者等々の売上も増加している。一方、原材料の値上げに加え人手不足などの影響で、一部の企業では経営状況が厳しくなっている（金融業）。
		○	・計画した生産量に比べ、若干であるが上振れ傾向が続く（輸送用機械器具製造業）。
	雇用関連	□	・人材不足もあり、新卒の就職市場は学生有利の状態が続いているため、学生はかなり楽観視している。企業側では、採用予算の削減という情報はあがるが、採用なしということはほとんどないため、当面良い状態が続く（民間職業紹介機関）。
その他の特徴コメント			○：メーカーの生産や供給が順調であるため、販売台数が高水準を維持することが期待できる（乗用車販売店）。 □：今月に入り会社員の来店数が落ちている。深夜来店も無くなり、近隣の飲食店も閉店が早い。燃料代や諸物価の上昇が外食頻度の低下を招いており、物価の上昇に給与の上昇が追い付いていないと考えられる（スナック）。

(D I) 現状・先行き判断D I（九州）の推移（季節調整値）

